

奄美大島から始まる学びの革新

株式会社 Schoo

—離島におけるリスキリングの実践

人口減少と少子高齢化が急速に進む日本。特に離島地域では、高校卒業後の進学や社会人の学び直しのタイミングで、多くの若者が島を離れていくという課題に直面しています。

鹿児島県奄美大島では、こうした課題に対応して、二〇二一年から島内五市町村（奄美市・大和村・宇検村・瀬戸内町・龍郷町）が、オンライン学習サービスを提供する「株式会社 Schoo（以下、スクー）」と、包括的パートナーシップ協定を締結。約六万人の住民の皆さんのが、スクーのオンライン学習サービスを利用できる環境の整備を進めています。

本稿では、パートナーとして関わさせていただいているスクーの視点から、この取り組みの経緯や島の方々の学びの実践の現況、これから展望などを紹介します。

スクーの概要と奄美大島五市町村との連携

スクーは、「世の中から卒業をなくす」というミッションを

掲げ、二〇一一年に創業して以来、社会人に向けたオンライン学習サービスを提供してきました。毎日配信する生放送授業、約九〇〇〇本の学習コンテンツを通じて、ビジネススキルからデザイン、プログラミング、マーケティング、自己啓発まで、社会人が「今、学んでおくべきこと」を幅広く提供し、二〇二五年現在の累計登録会員数は約一三五万人、累計導入企業数は四五〇〇社強を数えます。二四年一〇月には、東証グロース市場への上場も果たしました。

本稿で紹介する自治体との提携などの地域創生事業には、二〇一四年の福岡市との提携を嚆矢に、翌一五年から本格的に取り組んでいます。その背景には、「人口が減り続けている地方こそ学びという武器が必要であり、本当の意味で学びを必要としている人たちにこそ、リスキリングを届ける必要がある」という企業理念があります。スクーにとつての地方創生は、単なる社会貢献ではなく、日本の未来を変える可能性を秘めた「大きな事業機会」です。今後も地方創生に真摯に

取り組み、事業を拡大していきたいと考えています。

現在までに、全国で累計八二の自治体と連携を重ねてきましたが、九州は、二三年に熊本市、二五年に福岡市にサテライトオフィスを開設するなど、特に地域創生事業の拡大を図っている地域です。

奄美大島とスクーとのつながりは、二〇一七年に奄美市よりお声がけいただいたことに遡ります。同市と遠隔教育システムを活用した地方創生推進の包括的パートナーシップ

協定を締結し、その取り組みを進めていく中で、島全体が抱えている課題の大きさを実感しました。

例えば、当時の奄美大島は、書店が二軒、映画館はなく、講演会や展覧会も都市部に比べて圧倒的に少ない環境でした。高校卒業後は、進学のために島を離れざるを得ず、社会人になつて学び直したいと思つても、研修の機会は限られて



奄美大島5市町村と株式会社 Schoo の包括的パートナーシップ協定締結の記者会見の模様。

いました。このような状況の改善に向け、奄美市だけでなく奄美大島全体で取り組むべきではないかとの機運が高まり、

二年、奄美大島内五市町村すべてと包括的パートナーシップ協定を締結させていただきました。約六万人の住民の皆さんにスクーのオンライン学習サービスを利用できる環境を整備するという、学びへの投資を決断された各自治体の皆さんに敬意を表するとともに、スクーも奄美の未来づくりに関わらせていただけることに心から感謝しています。

オンライン学習サービスの特徴

スクーのオンライン学習サービス「Schoo」（以下、Schoo）の特徴は、大きく三つあります。

一つ目は「多様な学習コンテンツ」で、ビジネススキルはもちろんデザインやプログラミング、自己啓発など幅広い分野をカバーしていることです。毎日配信する生放送授業では、視聴者がリアルタイムでコメントを書き込み、講師や他の受講者たちと交流することもできます。

二つ目が「自分のペースで学べる」ことです。過去の授業は録画され、いつでも視聴が可能なため、通勤時間や休憩時間などの「スキマ時間」が「学びの時間」に変わります。動画のダウンロード機能もあり、インターネット環境が不安定

な場所でも学習を続けることが可能です。

最後が「実践的なスキルの習得」です。授業に登壇する講師は、各分野の第一線で活躍する実務家が多く、「明日から使える」実践的な内容を提供しています。島の皆さんからは、「東京で開催されるセミナーと同じ内容を島にいながら学べる」「新しいスキルでキャリアの選択肢が広がった」「学んだことが職場や地域で共有され、学びの連鎖が生まれている」などの声が寄せられています。

島で誕生した『学びの物語』

以下では、実際にS ch o oを受講し、そこで身につけたスキルを業務などに活かされている方々を紹介いたします。

なお、紙幅に限りがあるため、各事例の詳細を知りたい方は、スクールのウェブサイトをご覧ください（QRコードを読み込むと各事例についての記事が見られます）。

図書館から広げる学びの連鎖

奄美市の県立大島高校で図書館司書として働かれている森文江さんは、二〇二二年にS ch o oの受講を始めました。彼女は、デザインやメディアアリテラシーの授業を受けて「図書館だより」を工夫したり、「パワボ芸人シリーズ」の技術を才

リエンテーション資料に活かしています。

特に印象的なのは、目的の本がなかった生徒に授業の映像を見せたり、映画の授業を生徒と一緒に観て感想会を開くなど、S ch o oを図書館のレファレンスサービス（資料や情報を探している人に対し、図書館員が適切な情報源などを手助けして結びつけること）に活用していることです。「S ch o oで学び、生徒にシェアすることで新しい発見があり、学びが連鎖していくます」という森さんの言葉は、スクールにとつて大きな励みになっています。



「島のせい」が「島のおかげで」に

奄美市出身の平城修吾さんは、鹿児島市の専門学校で医療事務を学び、同市内の病院に就職。作業療法士資格を取得後、二七歳の時に奄美大島に戻りました。Uターンした当初、彼は、島での研修機会の少なさを感じたそうです。そこで、「離島こそ研修が必要」という信念のもと、ご自身でオンライン研修事業に取り組まれます。コロナ禍でオンライン活用の講師やアドバイザー業が増えしていく中、自分自身にも営業やマーケティングなどのさまざまな知識が必要となり、島にいな

がら事業に不可欠なスキルを身につけることができる、Schoolでの学びが非常に役立つたということです。

現在、平城さんは「Mellow Amami 合同会社」を立ち上げ、事業展開されています。島だからこそできることがあるという可能性を体現してくれている平城さんは、「島のせい」というネガティブマインドが、『島のおかげで』とポジティブに変化したことが大きな転機でした」と、Schoolを評価しています。



「島内同期」が生まれる場所

二〇二二年から継続的に開催している「五市町村官民合同新人研修」は、奄美大島五市町村の役所や民間企業の新卒・若手の皆さんを集めた、Schoolの授業を活用した対面形式の研修会です。この研修は、実践的なスキルを学ぶ場であると同時に、所属は違っていても「島内同期」としてつながる機会になつていると考えています。

参加者の一人である奄美大島信用金庫の新入社員（当時）・平田さんは、「年上の（参加者）皆さんから仕事の姿勢を学べました」と、感想を口にしています。また、奄美市職員三



5市町村 官民合同研修でのグループディスカッション。



年目（当時）の増田さんは、「所属の異なる人たちから自分はない視点を教えていただきました」と、話してくださいました。我われスクーとしても「学び合い」の価値を改めて実感する貴重な機会となっています。

Schooユーザー交流会には、30～70代まで約30名が参加した。

ユーチャー交流会でモチベーションの向上を

二〇二四年六月には、島内初の「Schooユーザー交流会」を開催しました。これは、「奄美で何か新しいことに挑戦してみたい」「Schooで学ぶことで、自分の視野や可能性を広げたい」という方々に向けて、同じ志を持つ仲間と出会い、つながることで、一歩を踏み出す勇気を得ていただきたい、という想いで企画したイベントです。

当団は三〇代から七〇代まで約30名が参加され、「対面で交流できる場があることで、学び続けやすくなる（モチベーションにつながる）」などの声をいただきました。オンラインでの学びと対面での交流をうまく組み合わせることの重要性を、改めて皆さんから教えていただきました。



好循環の地域づくりに向けて

スクーでは、これまでにも各市町村と協力して合同研修やユーザー交流会などのオフラインでの交流の場を企画したり、ツールの利用案内や活用事例の紹介など、さまざまな活動を通して、離島での学びの向上に努めてきました。

しかしながら、デジタルに不慣れな方へのサポートや、島ならではの学びのニーズに対応したコンテンツの提供など、島の皆さんと一緒に考えていくべき課題も、まだまだ多いと感じています。こうした状況も踏まえ、今後はおもに以下の四つのテーマに取り組んでいきたいと考えています。

一つ目は「地域全体でのデジタル活用」です。島全体のデジタルリテラシーが向上すれば、取引先間でのデジタルツールの共通利用による業務（ビジネス）効率の向上や、働き方の多様化を実現できるのではないかと思います。

二つ目は「学びと移住・起業の好循環」です。オンライン学習で新しいスキルを身につけた方が、起業したり、リモートワークで仕事を受注するなどの事例が増えています。学び直しと移住促進や起業支援を一連的に進めることで、島内人材の流出を防ぐとともにU-Iターン者を呼び込む好循環が生まれると確信しています。

三つ目は「他地域への展開」で、奄美大島で積み重ねてきた取り組みは、他の離島や地方にとってのモデルケースになると考えています。実際に、合同研修をきっかけとして「School Mesh」という地域共創型人材育成サービスが誕生し、二〇二五年一〇月から提供を開始しています。それぞれの地域の特性を踏まえ、適合させながら、持続可能なリスキリングモデルを拡大していきたいと思います。

最後は「新しい地域コミュニティの創生」です。オンライン学習を核として、世代や職業を超えた新しいつながりが生まれつつあります。島の活性化と持続可能な発展の基盤になるような、「学び」を通じた「学びのコミュニティ」を創つていきたいと考えています。

奄美大島の自治体と一緒に取り組んでいるSchoolを活用した人材育成は、島に住む皆さんの自主的な学び直しを後押しするものです。図書館司書の森さんが学ばれたスキルを図書館の魅力向上に活かし、起業家の平城さんが身につけた知識で事業を拡大し、若手職員や事業者の皆さんのが「島内同期」とのつながりを通じて将来の協働の種をまく――。一人ひとりの学びが、やがて島全体の活力となつて循環していくのではないかでしょうか。

少子高齢化と人口減少が進む日本において、奄美大島は新しい社会モデルを創造する「先進地」になりうることを、この取り組みは示しています。奄美の実践事例が全国の離島や過疎地域などに広がり、地域から日本の未来をより良いものに変えていきたい。スクールパートナーとして、島の皆さんのが学びを支え、離島の未来づくりの一翼を担えるよう尽力して参ります。